



新たな出発をむかえる昆虫館



子どもたちに昆虫や自然環境を学んでもらうことが、NPO法人の大きな目的（写真＝昆虫館でのNPO法人設立イベント）

再生する昆虫館

今年3月をもって閉館した昆虫館が再生されようとしています。昆虫館を新たな環境教育などの施設とするため、昆虫の専門家のみなさんが、5月10日「NPO法人こどもとむしの会」の設立総会を開催し、今後の活動に期待が寄せられています。

昆虫館の歴史

飼育・展示を基本に37年

三河地域にある昆虫館は、県が昭和46年、青少年野外活動施設として設置しました。以後37年間、内海功一館長らの努力で、昆虫学者として有名な平山修次郎さんの標本（平山コレクション）展示や、地域に生息する昆虫や水生生物の飼育展示が一貫して守り続けられてきました。

昆虫学者や愛好家、また子どもたちに親しまれてきた昆虫館でしたが、県の運営見直しが行われ、平成14年度から6年間、県から町に委託され、県の委託金で運営を行ってききました。

存続の協議と経緯

3月で歴史の幕を閉じる

平成18年度から、昆虫館の運営について、県教育委員会と町、町議会、また三河地域の自治会のみなさんで協議が進められてきました。その結

果、学術的に価値の高い平山コレクションを管理する設備の整備や専門家などの人材確保が困難であること、また厳しい財政状況などから、今後、本町での運営は難しいと判断。そのため、平山コレクションは「ひょうご環境体験館」で活用を図る一方、本年3月末で昆虫館を閉館することになりました。

今後の昆虫館

環境教育と地域活性化を目標に

閉館することを聞いた神戸大学大学院自然科学研究科の竹田真木生教授は「自然にふれる機会が少なくなった子どもたちのために、昆虫館を存続させなければ」と、昆虫の専門家や活動家に声をかけ、NPO法人設立準備会を立ち上げました。そして昆虫館をNPO法人が中心となって運営することを町へ提案しました。

提案を受けて、町や町議会、三河地域の自治会、また県で

検討が重ねられました。

その結果、施設を県から町が譲り受け、新たな昆虫館として再出発することに決定しました。

今後は、地元や関係機関と連携を深め、NPO法人のみなさんが中心となって、子どもたちの環境教育や、地域の活性化に向けた活動を行う施設として生まれ変わります。

三河地域では

さらに魅力ある地域づくりを

三河地域には「上三河農村舞台」や「ひまわり館」、また「南光自然観察村」、「瑠璃寺」など、たくさん『地域のたからもの』があります。そして地域の人たちの手で、これらを生かした地域づくりが進められています。

昆虫館で行われるさまざまな活動は、三河地域の人たちにとって、さらに魅力ある地域づくりを進めていく大きなチャンスとして、期待されています。

地域の子どもたちと交流 昆虫館でイベント開催

5月10日、昆虫館でNPO法人設立準備会主催の交流イベントが開催されました。

三河小学校の多くの子どもたちが参加し、昆虫を使ったゲームで楽しみました（写真右上）。

目的や活動計画を審議 NPO設立総会

昆虫館でのイベント終了後、三河ふれあいセンターで「NPO法人こどもとむしの会」の設立総会が行われ、活動の目的や計画などが決められました。



設立総会に参加するみなさん